

# 大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2022年 第37週（9月12日～9月18日）

## 今週のコメント

～手足口病・ヘルパンギーナ～ 手洗いの励行と排泄物の適切な処理が重要

### 定点把握感染症

「手足口病・ヘルパンギーナ 今後の動向に注意が必要」

第37週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,467例であり、前週比11.3%減であった。定点あたり報告数の第1位は手足口病で以下、RSウイルス感染症、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.23、2.16、1.81、0.55、0.30である。

手足口病は前週比4%減の437例で、中河内4.00、大阪市北部3.43、三島2.71、北河内2.60、南河内2.31であった。

RSウイルス感染症は11%減の424例で、堺市5.42、南河内4.63、北河内3.00である。

感染性胃腸炎は18%減の355例で、南河内3.75、中河内3.60、三島2.24であった。

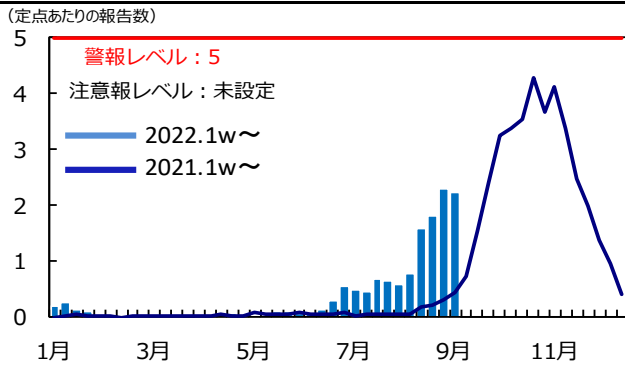
ヘルパンギーナは8%減の108例で、豊能1.09、三島1.06、大阪市北部0.79である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は12%増の58例で、大阪市南部1.22、中河内0.55、泉州0.42であった。

手足口病、ヘルパンギーナともに、地域によっては増加しており今後の動向に注意が必要である。

インフルエンザは50%減の3例で、定点あたり報告数は0.01であった。

手足口病



ヘルパンギーナ

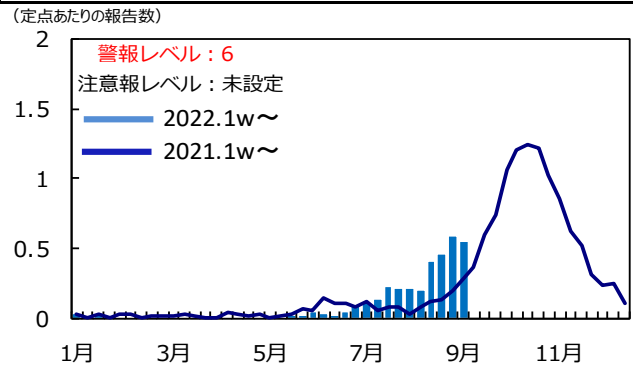


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第37週9月12日～9月18日）

第37週の順位	第36週の順位	感染症	2022年第37週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第37週の定点あたり報告数	2022年第37週の年齢別患者発生数最大割合値
1	2	手足口病	2.23	4%減	0.44	1歳_40%
2	1	RSウイルス感染症	2.16	11%減	0.55	1歳_31%
3	3	感染性胃腸炎	1.81	18%減	2.24	1歳_18%
4	4	ヘルパンギーナ	0.55	8%減	0.28	1歳_29%
5	6	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.30	12%増	0.36	3歳,4歳, 10-14歳_16%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.01	50%減	0.00	10-14歳_67%

突発性発しんについて、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。2022/23年シーズンのインフルエンザ集計は第36週から開始しました。

## 第37週のコメント

～腸管出血性大腸菌感染症～ 食肉・食材の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などにより、食中毒や感染拡大の予防を徹底することが重要です

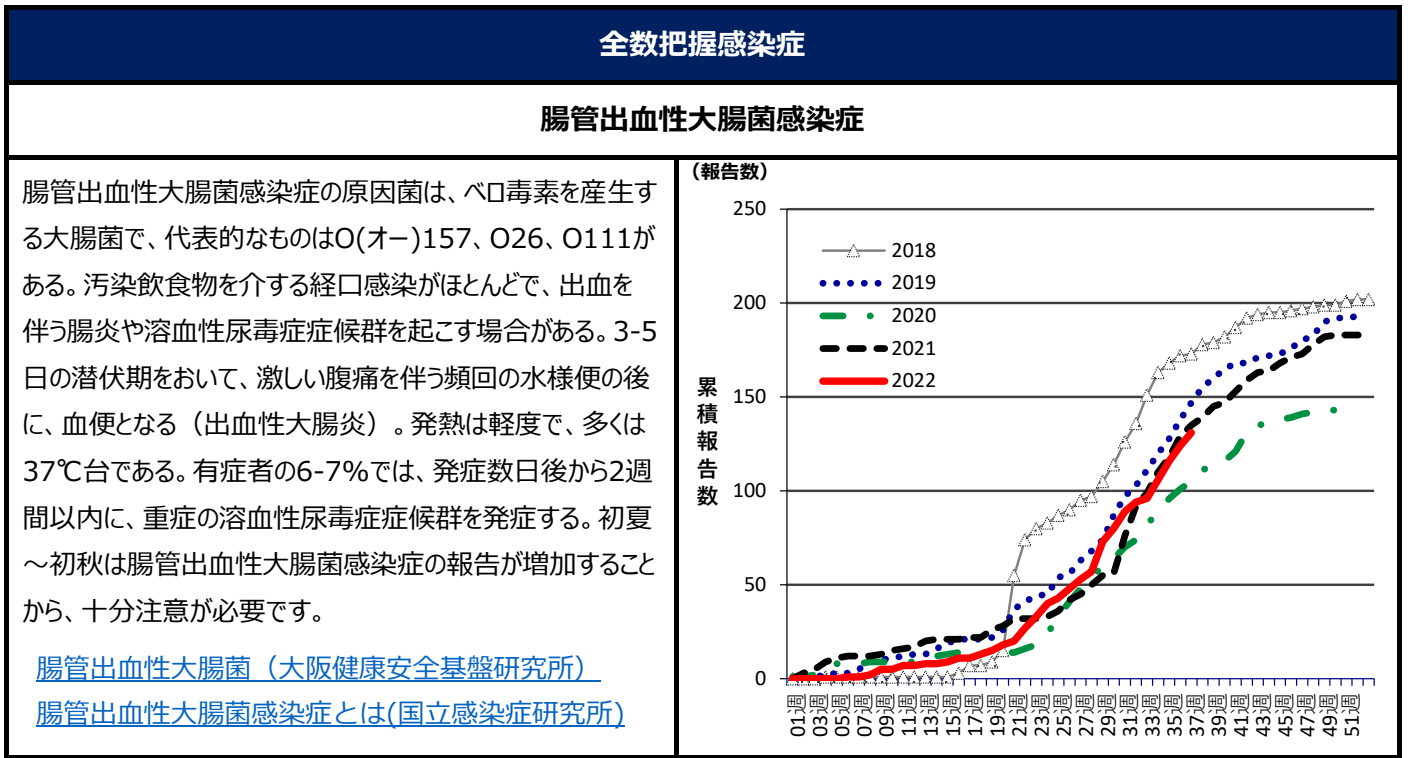


表2. 大阪府全数報告数（2022年 第37週9月12日～9月18日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります  
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 ( )内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内累積報告数									
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数	
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	7		1		1	1			1	3	131
4類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	1									1	72
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	1									88
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1									11
	侵襲性肺炎球菌感染症	1								1		65
	梅毒	11				1				1	9	1,175
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	42,221	2020年1月以降累計 2,051,549									
結核 (2022年7月分)	結核 新登録患者数：48名		(内 肺・喀痰塗抹陽性 20名) (府内累積報告数 578名、内 肺・喀痰塗抹陽性 214名)									

(2022年9月20日 集計分)